

日本パスツール財団について

当財団は、学生、研究者及び一般市民を対象に、ライフサイエンス分野における日本とフランス、その他海外研究機関などとの間で研究者、学生等の派遣受け入れ等の交流を盛んにし、その為の奨学金給費等を行います。

また海外の最先端のライフサイエンス分野の調査研究、資料収集等を促進し、そこから得た情報・知識をシンポジウム・講演会等の場で提供します。さらに、チャリティ・パーティーの開催、ウェブサイトを通じた広報活動も行っております。

これら事業を通じ、学術と科学技術を振興し、人々の健康と公衆衛生の向上に寄与することを目的としています。

日本パスツール財団では、パスツール研究所国際ネットワークのもつ知的財産や特許の利用をお考えの企業・研究機関・団体等の皆様のために、パスツール研究所（パリ）との橋渡し窓口を引き受けさせていただきます。随時ご相談ください。

■組織

理事長
Stewart COLE
(パスツール研究所 所長)

代表理事・常務理事
Pierre BAUDRY
渡辺 昌俊

(敬称略 2018年6月現在)



2016年7月、マダガスカルのへき地診療所にて現地研究者と共に
(島川祐輔医師・パスツール研究所パーマネントリサーチャー)

会員募集のご案内

皆様からの会費は、

- 若手日本人研究者のパスツール研究所への派遣
- パスツール研究所の国際ネットワークと日本の医科学分野の研究プログラム、研究者の交流支援
- 医学の発展に大きく寄与する優秀な日本人研究者の育成等々
パスツール研究所を通じ、世界の人類の健康のために大きく役立てられます。

会 員	入会金	年会費
普通会員(団体)	50,000円	100,000円
普通会員(個人)	5,000円	10,000円
学生会員	入会金なし	5,000円

※2018年12月末までにご入会いただいた個人会員は入会金免除。

※2018年7月1日以降にご入会いただいた方は年会費半額。

但し、年会費1年分をお支払いいただきますと、会員資格が2019年12月末まで延長されます。

[振込先]

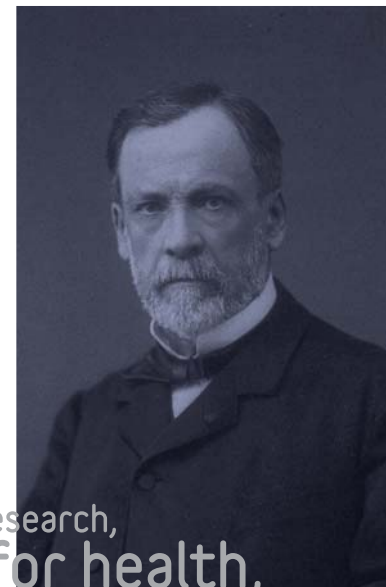
- 三菱UFJ銀行 銀座通支店 普通 0517640
口座名：ザイダンハウジン ニホンパスツールザイダン

- 皆様の任意の寄付は随時受け付けております。
人類の健康に貢献する活動へのご協力をお願いいたします。



●お問合せ先：一般財団法人 日本パスツール財団
〒104-0061 東京都中央区銀座6-3-2 ギャラリーセンタービル2階
TEL: 03-6228-5361 FAX: 03-6228-5365
E-Mail: jimukyoku@pasteur.jp
http://zaidan.pasteur.jp/
https://www.facebook.com/日本パスツール財団-1816553588575933/

編集・発行：一般財団法人 日本パスツール財団
製作年月：2018年6月 ©Institut Pasteur



for research,
for health,
for our future

一般財団法人
日本パスツール財団

日本パスツール財団理事長よりのご挨拶

このたび、日本パスツール財団の理事長に新たに就任しましたことを、大変光栄に存じます。これまで当財団の関係者により行われてきた事業、並びにパスツール研究所への献身に対し、心よりお礼申し上げますとともに、お慶び申し上げます。

2018年、パスツール研究所は新しい取り組みを始めました。すなわち、東京大学医科学研究所並びに京都大学医学研究科ゲノム医学センターとパスツール研究所との間で、2つの国際合同研究チームがそれぞれ密接に連携し、活発な活動を進めていくこととなったのです。日本国内のこれら2つの大学の研究者や関係者の皆様には、このように意欲的なプロジェクトに熱心に取り組んでいただきますことを感謝申し上げます。この取り組みが、日本とフランスの科学分野での関係強化に新たな一歩をしるすものと確信いたします。

皆様のご支援やご寄付のおかげで、日本パスツール財団は日仏両国間のこのような研究活動や新規の国際協力事業への支援を行っていくことができます。将来的には、日仏両国が積極的な協力関係にあり、またパスツール研究所国際ネットワークが歴史的に大きな存在感をもつアジア太平洋地域とアフリカの支援に、特に重点をおいて活動してまいります。

このような事業を達成することにより、日本パスツール財団が国際的な科学技術協力にとっての大きな支えとなり、ひいては人類の健康にも寄与するものと確信しています。



2018年4月
Prof. Stewart COLE
パスツール研究所 所長
日本パスツール財団 理事長

(以上、英文挨拶を和訳)

ルイ・パスツールの輝かしい業績

ルイ・パスツールは近代細菌学の開祖とされ、感染症の原因が微生物であることを発見、更に弱毒化した病原体を接種するワクチンを開発、予防接種の基礎を築きました。また牛乳、ワイン、ビールへの腐敗を防ぐ低温殺菌法の開発など今日に至る化学、生物学、医学の発展に大きく貢献しています。

- 1822年 フランス東部、ドールで生誕
- 1849年 光学異性体を発見
- 1855年 発酵の研究に着手のちに発酵が微生物の働きであることを発見
- 1861年 定説とされていた「生命の自然発生説」を否定嫌気生物を発見
- 1862年 低温殺菌法を開発
- 1863年 ワインの腐敗に関する研究
- 1865年 蚕の微粒子病の原因が原生動物であることを特定
- 1879年 弱毒化細菌による免疫法の発見のちに炭疽病、コレラ、結核、天然痘のワクチンを開発
- 1885年 狂犬病ワクチンを開発
- 1887年 パリにパスツール研究所設立
- 1895年 パリ郊外で死去



パスツール研究所の活動

パスツール研究所は、1887年に世界各国からの寄付により設立されて以来、公益目的の民間研究機関として、研究・教育・公衆衛生という3つのミッションに基づいた活動を行っています。1世紀を超える歴史の中、数々の輝かしい実績をあげており、これまで10人のノーベル賞受賞者を輩出しています。

パスツール研究所は、世界33の研究所と提携機関の国際ネットワークを活用し、近年アフリカ諸国を中心に猛威を振るったエボラ出血熱、デング熱等、感染症に関する研究、教育の共同プログラムに取り組んでいます。

2014年に世界で最初にエボラ出血熱の原因であるウイルスを特定、その後他の研究機関と連携しウイルス遺伝子解析に成功しています。またパスツール研究所は、ジカ熱対策等のタスクフォースに参加するなど、世界の人々の健康に対する脅威である感染症の対策に励んでいます。



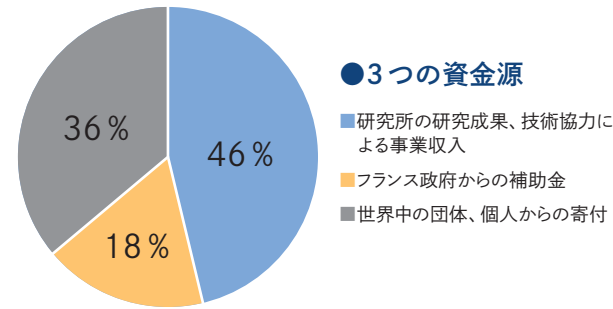
Institut Pasteur

パスツール研究所の主な研究成果

- 1894年 ジフテリアの治療、ペスト菌の同定
- 1921年 BCGワクチンの開発
- 1954年 ポリオワクチンの開発
- 1965年 酵素とウイルスの合成の遺伝子制御に関する発見(ノーベル賞)
- 1983年 エイズウイルスの発見(ノーベル賞)と診断法開発
- 1985年 ヒトB型肝炎ワクチンの開発
- 1989年 結核の迅速診断法の開発
- 2000年 ハンセン病菌の遺伝子完全解読(イギリス、サンガー・センターと共同研究)
- 2001年 髄膜炎におけるリステリア菌の感染メカニズム発見
- 2006年 インド洋のチクングンヤ・ウイルスの進化を解明
- 2014年 ギニアでエボラ出血熱ウイルスの新種を特定
- 2016年 ジカ熱ウイルスの完全な遺伝子シーケンスを発表

パスツール研究所の概要

設立：1887年(開所式：1888年11月14日)
所長：Stewart COLE
職員数：68国籍2500人の研究者・職員がパリ本部の研究所で働く
予算：年間予算：3.2億ユーロ
(数字はいずれも2016年現在)



●3つの資金源

- 研究所の研究成果、技術協力による事業収入
- フランス政府からの補助金
- 世界中の団体、個人からの寄付

●11の研究部門

構造生物学と化学・発生生物学と幹細胞・細胞生物学と感染・免疫学・感染と疫学・ゲノムと遺伝学・微生物学・真菌学・神経科学・寄生虫学と病原媒介昆虫・ウイルス学

●基礎研究の応用と技術移転

パスツール研究所には、長年にわたって蓄積された研究成果をもとに、基礎研究の応用と技術移転を行う専門の部局(DARRI)があり、特許の活用、企業との提携、コンサルテーションをミッションとしています。

●パスツール研究所の国際ネットワーク

世界26カ国33の研究所・提携機関間で国際ネットワークを展開



(2016年現在)

パスツール研究所と日本

パスツール研究所は、基礎研究のほか、応用研究や研究成果の活用を行い、世界の大学・研究機関、企業と連携をしています。日本においても同様に研究・教育において連携体制を築いてきました。現在、東京大学医科学研究所並びに京都大学大学院医学研究科ゲノム医学センターとパスツール研究所による「国際合同研究チーム」を設け、両メンバーが双方の研究室を自由に行き来しながら、研究を進めています。パスツール研究所がこの新しい形の国際合同チームによる研究を行うのは日本が初となります。

2015年には、日仏両国首相によりアフリカ支援計画が採択されました。この計画では、両国のアフリカでの保健、感染症・熱帯病に関する研究分野での協力を強化し、特に感染症については、アフリカで既に取り組みを行っているパスツール研究所、及びその国際ネットワークと日本の研究機関が協働して調査を開始しています。

また、「地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム」の一環として、ラオスのパスツール研究所と国立国際医療研究センターの共同研究が2015年にスタートしました。さらに2017年からは、パリのパスツール研究所と同センターとの研究協力合意に発展しています。新興・再興感染症に対する世界規模での対策、問題解決に向けての取り組みの中で、今後益々日本の研究機関とパスツール研究所の協力体制が重要になると考えられます。

なお、パスツール研究所には数多くの日本人若手研究者が勤務しており、現時点で10名を超える日本人がパーマネント・リサーチャー、ポスドク研究員、プロジェクト・マネージャーとして活躍しています。

